

持続可能なまちづくりに向けて新たにスタート！ 浜見平地区において4者連携協定を締結

～浜見平地区におけるエリアマネジメントの推進に関する連携協定～

独立行政法人都市再生機構（以下「UR都市機構」という。）、茅ヶ崎市、大和リース株式会社（以下「大和リース」という。）及び特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎（以下、「まちづくりスポット茅ヶ崎」という。）は、令和3年12月22日に浜見平地区におけるエリアマネジメントの推進に関する連携協定を締結いたしました。

本協定は、更なる公民連携を図り、安全性や利便性をはじめとした地域全体の生活環境の質の向上及び多様な世代が交流し支えあいながら持続可能なコミュニティを育むことができるまちづくりの実現を目的としております。

今後は、浜見平地区において住民、事業者、地権者が主体となり、公民が連携して展開される様々な活動（エリアマネジメント）が展開できるよう、本協定を締結した4者において、浜見平地区における地域課題等に関して継続的に連携し、協力してまいります。



左から、まちづくりスポット茅ヶ崎 代表理事 益永 律子、
茅ヶ崎市長 佐藤 光、UR都市機構 東日本賃貸住宅本部長 田島 満信、
大和リース 横浜支社長 前田 博之

【お問い合わせ先】

UR都市機構

東日本賃貸住宅本部 ストック事業推進部

（電話）03-5323-4585

総務部 総務課 （広報担当）

（電話）03-5323-2555

1. 背景・目的

日本住宅公団（現：UR都市機構）時代に整備した浜見平団地（3,407戸）は、茅ヶ崎市における初めての大規模団地であり、昭和39年から管理開始しました。その後約40年を経て、平成17年より団地の建て替え事業に着手しています。UR都市機構と茅ヶ崎市は、建て替えを契機に浜見平地区を茅ヶ崎市南西部の生活・防災拠点、景観拠点とし、地域特性を踏まえたコンパクトで持続可能な地域社会・地域活動が実現されることを目指し、ハード整備に加えて地域活動を支えるソフト施策も含め、連携してまちづくりを進めてまいりました。

まちづくりにおいては、団地の建て替えに加え、地域の安全性向上や憩いの場として防災機能を有する公園等をUR都市機構にて整備しています。さらに、建て替えによって生まれた整備敷地を利用して、地域の利便性向上に資する市役所出張所や図書室、体育室、地域包括支援センターなどが入り茅ヶ崎市南西部複合施設「ハマミーナ」、スーパーマーケットや飲食店等が入り地域に賑わいをもたらす商業施設「ランチ茅ヶ崎」、「ランチ茅ヶ崎2」、「ランチ茅ヶ崎3」が大和リースにより整備されました。また整備にあたっては、大和リースより地域住民の自発的な活動を支援する組織の立ち上げについて提案があり、この提案を踏まえてまちづくりスポット茅ヶ崎が組織され、平成27年より地域に根差した活動が始まっております。

令和3年10月に待望のランチ茅ヶ崎3がオープンし、浜見平地区中央部に位置する生活拠点ゾーンの建物施設が完成を迎えたことから、今後更なる公民連携を図り、一層の生活環境の質の向上に加え、多様な世代が交流し支えあいながら持続可能なコミュニティを育むことができるまちづくりを目指して、今回「浜見平地区におけるエリアマネジメントの推進に関する連携協定」を締結いたしました。

今後、この4者では浜見平地区における賑わいの創出、多様な世代の居場所づくり、自助・共助の仕組みづくりの構築、防災・災害対応力の向上など、様々な地域課題に関して継続的に連携し、協力してまいります。



建て替え後のコンフォール茅ヶ崎浜見平



10月にオープンしたランチ茅ヶ崎3



地域の憩いの場 しろやま公園



しろやま公園での防災イベントの様子

2. 締結者

- ・茅ヶ崎市長 佐藤 光 (さとう ひかる)
- ・UR都市機構 東日本賃貸住宅本部長 田島 満信 (たしま みつのぶ)
- ・大和リース 横浜支社長 前田 博之 (まえだ ひろゆき)
- ・まちづくりスポット茅ヶ崎 代表理事 益永 律子 (ますなが りつこ)

3. 主な連携事項

- ・賑わいの創出
- ・多様な世代の居場所づくり
- ・自助・共助の仕組みづくりの構築
- ・防災・災害対応力の向上 など

4. 参考

- ・茅ヶ崎市まちづくり計画 (茅ヶ崎市ホームページ)

URL: <https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/machidukuri/1007931/1008044/1008061.html>

以 上